

## 平成22年度第2回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録

1. 日時 平成22年8月26日(木) 13:50-15:30

2. 場所 芝浦工業大学豊洲キャンパス

3. 出席者(敬称略)

大石(編修長,長岡技術科学大学)、村上(編修長補佐,慶応大学)、木村(D1副主査、大阪工業大学)、高瀬(D3主査、摂南大学)、米谷(D3副主査、)、村井(D3次年度副主査、)、近藤(特集論文ゲストエディタ)

欠席:藤崎(D1主査、豊田工業大学)、野口(D1次年度副主査、静岡大学)、寺田(D2主査、徳島大学)、森本(D2副主査、東海大学)、亀井(D2次年度副主査)

4. 提出資料

22-3-0 議事次第(木村)

22-3-1 前回議事録(案)(木村)

22-3-2 電子査読システムの運用状況、特集号解説記事の取り扱い、返送異議、論文査読システムのフロー(村上、大石)

22-3-3 「多次元」特集号について(村上)

22-3-4 「J-RAIL 2010」特集号について(近藤)

5. 議事

5.1 前回議事録の確認(資料22-3-1)

・特に異議無く、承認された。

・論文委員会の再編成について、大石編修長より説明があった。基礎グループ:D1,D2,D3と応用グループ:D1,D2の再編追加分(モータドライブ、家電民生)とする方向で調整中とのことであった。

5.2 電子査読システム運用状況(資料22-3-2)

・D1は特集号などで査読数が増えている、との説明があった。特集号リストにIPEC特集号を追加しておくことを確認した。英文誌は論文数が予定を超過したため、掲載が遅れている、との説明があった。

5.3 特集号状況確認(資料22-3-3, 4)

「モーションコントロール」特集の現状は不明、との説明があった。

「多次元」は順調に査読中で、解析論文が数件有り、との説明があった。

「J-RAIL 2010」特集について、近藤幹事から次のような説明があった。

- ・成立条件5論文はクリアできそうである。

- ・「回転機」および「SPC」特集号があるので、2012年2月掲載に予定する。

大石編修長より、ゲストエディタが延長を操作することにより、締め切りを延長できる、との説明があった。

また、幹事がゲストエディタの場合も査読幹事に割り当てても良い、との説明があった。

#### 5.4 特集号解説記事の取り扱いについて（資料2 2-3-2）

特集号の解説論文を論文誌の冒頭に置くようにするには事務局へ連絡が必要、との説明があった。

主査が「解説論文」であることを記入して事務局へ返送する必要がある、とのこと。

できれば、ゲストエディタが最終判断できればよいのだが、ゲストエディタは査読結果を入力できないので、主査が確認の上、順番を指定することとしたい、との説明があった。

ゲストエディタに論文の順番を決めてもらうように3ヶ月前に依頼を出す必要がある。

「解説論文」であることを序文などに書いてもらうようにするのはよい方法なので、是非勧めたい、とのことであった。

#### 5.5 論文査読システムのフローについて（確認）（資料2 2-3-2）

D部門では新しい査読判定フローを試行する。2年間程度実施する予定である。

B,C判定の査読者には2名とも査読してもらう。A,D判定の場合は再査読しないので、追加査読者を出すことになる。

A判定も理由をしっかりと書いてもらう必要がある。幹事が判断できるようにお願いしたい。

再査読後もAAもしくはAB判定になれば掲載決定を幹事で判断する。

再々査読後は1名査読にする。査読期間の短縮のため、やむを得ない。

#### 5.6 電学論返送異議に関するご意見（D2）（資料2 2-3-2）

返送異議について

- ・返送理由の中に「新規性があるようだ」との記述があったため、著者から「新規性を認めているのではないか」との疑義が寄せられた。

しかしこの記述は、「十分に認められなかった」、という意味であると考えられる。

論文委員会としての返信は上記を踏まえることで、異議無く了承された。

#### 5.7 電学論不採択論文に関するご意見（D1）（資料2 2-3-2）

- ・「『過去の文献から容易に推定できる』という根拠になるような文献を示してもらいたい」との要望に対しては、特にそれを示すことなく、元々論文の要件を満たしていない、と回答することとした。『一般的な原理と既出の論文から推定できる。』という意味である、という趣旨とする。

## 5.8 その他

英文誌が予定数を大幅に超過したため、掲載遅れになっている、との説明があった。

これに関連して、次のような意見交換があった。

- ・ D 部門英文誌を作ることを検討している。
- ・ 季刊程度にすれば、掲載遅れは緩和されるはずである。
- ・ 将来的には SCI も取る可能性もある。
- ・ D 部門だけ、では問題も多いので、他の可能性も検討してもらいたい。

## 5.9 次回開催日

10月5日(火)、 場所：電気学会事務局内会議室

編修長、副編修長、ゲストエディタと D1 幹事とで IPEC 特集論文新規性のチェックを行う予定である。その後の査読作業は通常通り行うことを確認した。

以上